



埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2022年)

埼玉県で2022年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は119株でした。26血清型が検出され、O157:H7が最も多く、64株(53.7%)でした。次いでO26:H11が18株(15.1%)、O157:H-が6株(5.0%)と続きました。2021年から、埼玉県を含め全国的に検出されたO156:H25については、引き続き2022年の前半に2株検出されました。

毒素型については、O157:H7ではVT1,VT2産生株が36株、VT2単独産生株が26株、O26:H11ではVT1単独産生株が15株でした。なお、O26:H11では検出が稀なVT2単独産生株が2株みられました。

検出された119株のうち、41株(34.5%)は患者発生に伴う家族検便や給食従事者等に対する定期検便で無症状者から検出されたものでした。最も多く検出されたO157:H7では20.3%(13株/64株)が無症状者から検出されました。

表 腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数(2022年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	2	26	36	64
O157:H-	1	2	3	6
O26:H11	15	2	1	18
O111:H-	-	-	2	2
O8:H-	-	2	-	2
O84:H2	2	-	-	2
O91:H-	-	-	2	2
O103:H2	1	-	1	2
O112ab:H2	2	-	-	2
O121:H19	-	2	-	2
O156:H25	2	-	-	2
その他	7	7	1	15
	32	41	46	119

検出株については、MLVA法による遺伝子型別を実施しました。O157:H7は64株が41パターンに、O26:H11では18株が14パターンに分けられました。県内では散発事例のみの発生であり、特定のMLVA型の集積も確認されませんでした。なお、当所で2022年12月に2株確認したO26:H11,VT2単独産生株は、全国で66株(2023年4月12日現在)の集積がみられたMLVA型グループに該当しました。

感染拡大防止に向けて、推定感染原因の情報共有と感染状況の把握が重要となります。